

令和6年度 八重東小学校 研究推進計画

1 研究主題

対話を通して考えを深める学びの創造

～引き出す・広げる・見つける・生かすの工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

本校では昨年度、「導入」「練り合い」「振り返り」場面における「ファシリテーションの工夫」を行うことで「児童の自ら学ぶ力の向上」、「児童の自己有用感の向上」を目指す研究実践を行い、具体的な取組や授業改善を行ってきた。その中で次のような成果と課題が見られた。

【成果】

- ・全ての学級で研究授業を予定通り実施し、デジタル機器の効果的な活用、ファシリテーションを意識した指導、「つなぐってわーど表」を用いた授業づくりにより、児童の主体的・対話的な学びの場を作り出すことができた。
- ・単元構想シートを活用することで、それぞれの教員が児童の学びを深めるための「問い」を意識して授業づくりを進めることができた。
- ・単元構想の際に「単元のゴール」を設けることで、児童の学習意欲を高め、一人一人の主体的な学びに繋げることができた。
- ・全ての教員が、授業の「導入」「練り合い」「振り返り」の場面におけるファシリテーションの工夫を実践していくことができた。

【課題】

- ・実践してきた「ファシリテーション」について、児童の主体的で対話的な深い学びにどうつなげていくかという点において、議論・検討が今後も必要である。
- ・「自己有用感」の高まりについて、授業を通して高まったかどうかの評価観点が定まっておらず、研究の成果として判断が難しい。

そこで、本年は、「導入→（児童の考え等を引き出す）」「練り合い→（児童の考えを広げる）」「振り返り→（共通点等を見つめる）、（今後の学習に生かす等）」の場면을工夫することにより、対話を通して考えを深める授業の実現を図り、児童の自ら学ぶ力と共に学ぶ力を向上させていきたい。

また、「自己有用感」の高まりの評価については、「対話に関する自己有用感」の評価に焦点化することで見取りのポイントを分かりやすくする。児童の変容をつかむため、年度始め、年度中間、年度末に児童アンケートを実施し、研究の成果を明らかにする。

3 研究仮説

「導入」「練り合い」「振り返り」場面において「ファシリテーションの工夫」をし、対話を通して考えを深める学びを行うことで、児童の自ら学ぶ力や共に学ぶ力が向上し、自己有用感を高めることができるだろう。

4 研究内容

授業づくりをするにあたり、以下の視点について研究を行う。

○「導入(引き出す)」の工夫

- ・児童の興味・関心を引き出す。(ICTの活用等)

○「練り合い(広げる)」の充実

- ・児童の言語活動の充実のための場の設定を行う。
- ・児童の思考を広げる発問を工夫する。

○「振り返り(見つける)(生かす)」の充実

- ・振り返りの視点を定める。
- ・自己の高まりを自覚し、新たな課題解決の挑戦へとつながるような働きかけを行う。

5 検証の視点と方法

(1) 理論研修(研究主題に関わる共通認識)

- ・1年間の研究の方向性についての確認を行う。
- ・広島県立教育センター等の研修で「対話的で深い学び」に関わる理論研修を行う。

(2) 授業研究(全職員1人1回以上実施)

- ・授業研究を行う。(1~6年・特別支援学級)
- ・授業やりますコーナーを設置する。
- ・研究授業前には、2段階の指導案検討と模擬授業等を行う。
- ・授業後には、授業観察シート等を用いて、観察者による相互評価を行い検証する。

(3) 検証(児童のテスト・アンケート)

- ・単元テスト「国語」「算数」を行い、定着しているか検証する。
- ・年度始めや年度中間、年度末に児童のアンケートを行い、研究の成果を検証する。